

講義コード	2R025011
講義名	チーム医療学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R2-2114
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 竹田 知広	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

竹田 知広〔臨床検査技師〕

上北 宏美〔臨床検査技師〕

#### 目的

近年、がん分子標的薬が多数開発されている。それに伴い、検出された遺伝子変異に応じて分子標的薬を処方するがんゲノム医療（プレジジョン・メディシン＝精密医療）が国家戦略として進展しつつある。従来分子標的薬の投与においては、候補となる遺伝子変異を一回の検査で通常一つしか検査できないが、がんゲノム医療においては、次世代シーケンサーにより網羅的に測定、解析し一度の検査で個々の患者にあった薬剤選択が可能となる。しかし、次世代シーケンサーをはじめとするがんゲノム医療実現にあたっては、測定、解析にあたる人材が不足していることが指摘されている。次世代シーケンサーやその関連機器を用いて、がんゲノム医療担う次世代遺伝子検査技師育成を目的とする。

#### 到達目標

がんゲノム医療における他種職との連携のあり方、また、臨床検査技師としての専門性の重要性を理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.がんゲノム医療とは(竹田)
- 2.認定資格と臨床検査技師(竹田)
- 3.がんゲノム医療の必要性(竹田)
- 4.がんゲノム医療実践するためのコミュニケーション力(竹田)
- 5.がん生物学(竹田)
- 6.がん遺伝子(竹田)
- 7.次世代シーケンスとは(竹田)
- 8.次世代シーケンスの実際(竹田)
- 9.ターゲットシーケンス(上北)
- 10.バイオインフォマティクス(上北)
- 11.遺伝子検査のまとめ(上北)
- 12.2次的所見(上北)
- 13.遺伝カウンセリング(上北)
- 14.バイオインフォマティクス演習(上北)
- 15.まとめ(上北)

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

特に指定しない。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日 13:00~15:00

研究室・授業用E-mail

1号館207研究室

t-takeda@kansai.ac.jp

講義コード	2R056011
講義名	医療情報処理演習
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床検査学
科目ナンバリング	R2-3501
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍵弥 朋子	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鍵弥朋子〔臨床検査技師〕

#### 目的

パソコンで文章を書く、表やグラフを描くことは、大学生にとって必須の技能である。レポートはパソコンで作成すること、と指定されている場合もある。基本的な文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使えるようになるのが目的である。

#### 到達目標

文章作成ソフト Word が使える。  
表計算ソフト Excel が使える。  
プレゼンテーションソフト Power Point が使える。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. パソコンの使い方
2. 文章作成ソフト Word ①
3. 文章作成ソフト Word ②
4. 文章作成ソフト Word ③
5. 表計算ソフト Excel ①
6. 表計算ソフト Excel ②
7. 表計算ソフト Excel ③
8. 表計算ソフト Excel ④
9. 表計算ソフト Excel ⑤
10. 表計算ソフト Excel ⑥
11. プレゼンテーションソフト Power Point ①
12. プレゼンテーションソフト Power Point ②
13. プレゼンテーションソフト Power Point ③
14. プレゼンテーションソフト Power Point ④
15. プレゼンテーションソフト Power Point ⑤
16. まとめ

#### 成績の評価

レポート、提出課題

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

できるWord&Excel&PowerPoint 2016（インプレス）

オフィスアワー

12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D・kagiya@kansai.ac.jp

講義コード	2R058011
講義名	一般検査学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査学
科目ナンバリング	R2-3204
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 上北 宏美	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

上北宏美〔臨床検査技師〕

### 目的

一般検査は、尿、糞便、穿刺液などの検体を扱う検査分野であり、検体検査の最も基本となるものである。検体の採取法、取り扱い、定性・定量検査、形態学的検査を学び、検査項目の臨床的意義を理解する。

### 到達目標

一般検査の概要がわかり、尿や糞便検査について説明できる。異常値の発生機序を想像できる。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

### 授業計画

1. 一般検査とは
2. 検体の取り扱い
3. 尿検査 尿試験紙
4. 尿検査 蛋白質
5. 尿検査 糖、ケトン体
6. 尿検査 ビリルビン、ウロビリノゲン、ポルフィリン体
7. 尿検査 フェニルケトン体など
8. 尿検査 血尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿
9. 尿検査 感染症、腎機能検査
10. 尿沈渣 標本作製、記載法
11. 尿沈渣 検鏡法
12. 糞便検査
13. 髄液
14. 穿刺液
15. まとめ

### 成績の評価

定期試験にて評価する。

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の解説を実施する。

### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「最新臨床検査学講座 一般検査学」(医歯薬出版)  
「病気がみえる vol.8 腎・泌尿器」(メディックメディア)

参考資料

「標準臨床検査学 臨床検査総論」(医学書院)  
「コンパクト生化学」(南江堂)

オフィスアワー

水曜日13:00~17:00

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D

講義コード	2R059011
講義名	一般検査学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床検査学
科目ナンバリング	R2-3205
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 上北 宏美	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鍵弥朋子〔臨床検査技師〕

上北宏美〔臨床検査技師〕

#### 目的

一般検査の実践、実技を行う。自己の検体を用いて各種項目の分析を行う。検査実技を習得し、測定原理、測定意義、疾患との関連を理解する。

#### 到達目標

実際に検査を体験し、一般検査学で学んだ知識を確認しながら確実なものとする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 実習についての説明（実習心得）
2. 実習についての説明（安全性など）
3. 採尿方法、外観・性状
4. 比重、尿試験紙法
5. 尿蛋白定性定量検査 スルホサリチル酸法
6. 尿蛋白定性定量検査 キングスベリー・クラーク法
7. 尿糖定性定量検査 ニーランドル法
8. 尿糖定性定量検査 グルコースオキシダーゼ法
9. 尿中ビリルビン、ウロビリノゲン ロザン法
10. 尿中ビリルビン、ウロビリノゲン ワーレス・ダイヤモンド法
11. 尿中5-HIAA スクリーニングテスト
12. 尿中VMA スクリーニングテスト
13. 尿沈渣検査1 標本作製
14. 尿沈渣検査1 検鏡、結果報告
15. 尿沈渣検査2 尿沈渣成分鑑別 正常成分
16. 尿沈渣検査2 尿沈渣成分鑑別 異常
17. 混濁尿の鑑別 化学的鑑別
18. 混濁尿の鑑別 形態学的鑑別
19. 血尿ヘモグロビン尿ミオグロビン尿の鑑別 化学的鑑別
20. 血尿ヘモグロビン尿ミオグロビン尿の鑑別 形態学的鑑別
21. 脳脊髄液 外観・性状
22. 脳脊髄液 細胞数算定

23. 糞便検査 潜血反応 化学的検査
24. 糞便検査 潜血反応 免疫学的検査
25. 腎機能検査 原理
26. 腎機能検査 測定
27. 穿刺液検査 化学的検査
28. 穿刺液検査 形態学的検査
29. 実習まとめ
30. 総括

#### 成績の評価

定期試験、実習レポート、実技試験で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

#### 自己学習

講義の復習をしてから、実習に臨むこと。

実習の復習をすること。

#### 履修上の注意

検体、薬品、器具、機器の取り扱いに十分注意すること。

#### テキスト

「最新臨床検査学講座 一般検査学」(医歯薬出版)

「病気がみえる vol.8 腎・泌尿器」(メディックメディア)

#### 参考資料

「標準臨床検査学 臨床検査総論」(医学書院)

「一般検査技術教本 (JAMT技術教本シリーズ)」(丸善出版)

#### オフィスアワー

水曜日 13:00~17:00

#### 研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D (鍵弥・上北)

講義コード	2R067013
講義名	英語表現法Ⅲ①
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 杉山 真央	指定なし
非常勤	板垣 浩正	指定なし

#### 目的

現代国際社会に対する視野を広げ、最新的话题を英語で学び、国際語としての英語の運用能力を高めます。また、グループ内での学習を通して、自分自身の考えを他者が理解できるように発信するために必要な論理的思考やコミュニケーション能力の向上も目指します。テキストに合わせて音声や映像を用意してありますので、授業外でも英語の能力を高めていくことができます。受講者数・受講生の理解に応じて、進捗は変更する場合があります。

#### 到達目標

本文の主張や概要を適切に理解し、発表することができる。トピックに合わせて、身近にある社会現象に対して、自分の意見を持ち、4～8文程度であれば、辞書を使って英語でまとめることができる。ペアやグループで行ったディスカッションを簡単な英語であれば、発表することができる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／協調性・コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit1. Sprouting New Sushi Ideas
3. Unit2. In the Pole Position
4. Unit3. Easing off
5. Unit4. In Memory of Monty
6. 中間課題準備
7. 中間課題発表
8. Unit5. Dating the AI Way
9. Unit6. Floating on a Dream
10. Unit7. Japan Adventurer Completes Grand Slam
11. Unit8. Sorting It out
12. 中間筆記試験
13. 期末プレゼンテーション概要説明・準備
14. 期末プレゼンテーション1
15. 期末プレゼンテーション2・まとめ

#### 成績の評価

平常点20%, 定期試験40%, 期末試験40%

ただし、4回以上欠席した場合の単位は一切認めません。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の後、全体の評価と解答例を提示する予定である。

## 自己学習

授業内で指示された箇所についての予習・復習。  
単語テストを課すこともあります。

## 履修上の注意

テキスト・辞書は必ず持参すること。  
授業活動への積極的な参加が重要です。

## テキスト

「NHK NEWSLINE2 (映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本2)」 (金星堂)

## 参考資料

授業内で紹介します。

## オフィスアワー

授業後に受付します。  
事前にメール等で連絡してください。

## 研究室・授業用E-mail

itagaki.pmpm@gmail.com

講義コード	2R067014
講義名	英語表現法Ⅲ②
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

**担当教員**

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南澤 佑樹	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

南澤 佑樹

**目的**

本授業では、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングといった英語の基本的な技能を総合的に伸ばしていくことを目的としています。また授業内では、現代社会に関する様々なトピックを取り上げ、日本とは異なる文化に対する関心を高めることを目指します。

**到達目標**

1. 小説内で取り上げられている語や表現を身につける。
2. 簡単な内容の小説を、辞書を用いて読むことができるようになる。
3. 簡単な英語を聞いて理解することができるようになる。
4. 自身の興味・関心のある事柄などについて、簡単な英語を用いて分かりやすく伝えることができるようになる。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**人間力／協調性・コミュニケーション能力**

**授業計画**

1. オリエンテーション（成績評価・授業の進め方など）
  2. The Green Door①
  3. 小テスト / The Green Door②
  4. 小テスト / The Green Door③
  5. 小テスト / The Green Door④
  6. 小テスト / The Green Door⑤
  7. 小テスト / グループ・ワーク①
  8. グループ・ワーク②
  9. The Green Door⑥
  10. 小テスト / The Green Door⑦
  11. 小テスト / The Green Door⑧
  12. 小テスト / プレゼンテーションの構造
  13. グループプレゼンテーション準備①
  14. グループプレゼンテーション準備②
  15. グループプレゼンテーション
- ※授業内容の理解に応じて授業の進度・内容が変更になる場合があります。

**成績の評価**

20%

小テスト：  
グループワーク：15%  
プレゼンテーション：30%  
授業への参加度：35%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・小テストは、次回授業時に採点して返却します。
- ・グループワークおよびプレゼンテーションについては、授業内で解説、フィードバックを行います。

#### 自己学習

- ・授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
- ・授業内で学習した単語やフレーズは次回の授業までに覚えてくること。
- ・翌週の学習範囲を通読し、意味の分からない単語やフレーズがあれば事前に調べておくこと。

#### テキスト

授業中にプリントを配布します。

#### 参考資料

授業内で紹介します。

『英語で読むオー・ヘンリー傑作短篇集』（IBCパブリッシング）

※テキストの購入の必要はありません。

#### オフィスアワー

授業の前後に適宜対応します。

#### 研究室・授業用E-mail

初回授業時に提示します。

講義コード	2R068013
講義名	英語表現法Ⅳ①
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

**担当教員**

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南澤 佑樹	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

南澤 佑樹

**目的**

本授業では、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングといった英語の基本的な技能を総合的に伸ばしていくことを目的としています。また授業内では、現代社会に関する様々なトピックを取り上げ、日本とは異なる文化に対する関心を高めることを目指します。

**到達目標**

1. 小説内で取り上げられている語や表現を身につける。
2. 簡単な内容の小説を、辞書を用いて読むことができるようになる。
3. 簡単な英語を聞いて理解することができるようになる。
4. 自身の興味・関心のある事柄などについて、簡単な英語を用いて分かりやすく伝えることができるようになる。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**人間力／協調性・コミュニケーション能力**

**授業計画**

1. オリエンテーション（成績評価・授業の進め方など）
  2. The Green Door①
  3. 小テスト / The Green Door②
  4. 小テスト / The Green Door③
  5. 小テスト / The Green Door④
  6. 小テスト / The Green Door⑤
  7. 小テスト / グループ・ワーク①
  8. グループ・ワーク②
  9. The Green Door⑥
  10. 小テスト / The Green Door⑦
  11. 小テスト / The Green Door⑧
  12. 小テスト / プレゼンテーションの構造
  13. グループプレゼンテーション準備①
  14. グループプレゼンテーション準備②
  15. グループプレゼンテーション
- ※授業内容の理解に応じて授業の進度・内容が変更になる場合があります。

**成績の評価**

20%

小テスト：  
グループワーク：15%  
プレゼンテーション：30%  
授業への参加度：35%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・小テストは、次回授業時に採点して返却します。
- ・グループワークおよびプレゼンテーションについては、授業内で解説、フィードバックを行います。

#### 自己学習

- ・授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
- ・授業内で学習した単語やフレーズは次回の授業までに覚えてくること。
- ・翌週の学習範囲を通読し、意味の分からない単語やフレーズがあれば事前に調べておくこと。

#### テキスト

授業中にプリントを配布します。

#### 参考資料

授業内で紹介します。

『英語で読むオー・ヘンリー傑作短篇集』（IBCパブリッシング）

※テキストの購入の必要はありません。

#### オフィスアワー

授業の前後に適宜対応します。

#### 研究室・授業用E-mail

初回授業時に提示します。

講義コード	2R068014
講義名	英語表現法Ⅳ②
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 杉山 真央	指定なし
非常勤	板垣 浩正	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

板垣 浩正

#### 目的

現代国際社会に対する視野を広げ、最新的话题を英語で学び、国際語としての英語の運用能力を高めます。また、グループ内での学習を通して、自分自身の考えを他者が理解できるように発信するために必要な論理的思考やコミュニケーション能力の向上も目指します。テキストに合わせて音声や映像を用意してありますので、授業外でも英語の能力を高めていくことができます。受講者数・受講生の理解に応じて、進度は変更する場合があります。

#### 到達目標

本文の主張や概要を適切に理解し、発表することができる。トピックに合わせて、身近にある社会現象に対して、自分の意見を持ち、4～8文程度であれば、辞書を使って英語でまとめることができる。ペアやグループで行ったディスカッションを簡単な英語であれば、発表することができる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／協調性・コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit8. Sorting It out
3. Unit9. Haircuts for Charity
4. Unit10. Peer Group Consumption
5. Unit11. Taste of Temple Life
6. 中間課題準備
7. 中間課題発表
8. Unit12. New Take on Tatami
9. Unit13. Traveling with Confidence
10. Unit14. Tanzanian Students Discover Japan
11. Unit15. Back to Basics
12. 中間筆記試験
13. 期末プレゼンテーション概要説明・準備
14. 期末プレゼンテーション1
15. 期末プレゼンテーション2・まとめ

## 成績の評価

平常点20%, 定期試験40%, 期末試験40%

ただし、4回以上欠席した場合の単位は一切認めません。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の後、全体の評価と解答例を提示する予定である。

## 自己学習

授業内で指示された箇所についての予習・復習。

単語テストを課すこともあります。

## 履修上の注意

テキスト・辞書は必ず持参すること。

授業活動への積極的な参加が重要です。

## テキスト

「NHK NEWSLINE2 (映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本2)」 (金星堂)

## 参考資料

授業内で紹介します。

## オフィスアワー

授業後に受付します。

事前にメール等で連絡してください。

## 研究室・授業用E-mail

itagaki.pmpm@gmail.com

講義コード	2R076011
講義名	画像検査学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3304
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 きよみ	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

後藤 きよみ [臨床検査技師]

### 目的

- ・腹部・表在臓器の画像を理解するための、超音波的な解剖について理解を深める。
- ・他の画像診断の知識を深める。
- ・当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されています。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

### 到達目標

- ・超音波・MRI・サーモグラフィなどについて検査の原理を説明できる。
- ・超音波・MRI・サーモグラフィなどについて撮像画像を理解できる。
- ・各種疾患について総合的に画像を理解できる。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／専門技術

### 授業計画

1. 超音波検査に必要な解剖と基本的画像
2. 心臓領域の基本的画像
3. 心疾患における超音波像①：虚血性・弁膜症・肺高血圧症
4. 心疾患における超音波像②：おもな先天性疾患
5. 心疾患における超音波像③：心筋症・心膜疾患ほか
6. 腹部領域の基本的画像
7. 腹部における超音波像（肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓ほか）
8. 体表における超音波像（甲状腺・頸動脈・乳腺ほか）
9. 泌尿器系・産婦人科
10. 血管領域の超音波像
11. 消化管における超音波像
12. 胎児における超音波像
13. 血流依存性血管拡張反応（FMD）
14. MRI検査・サーモグラフィ検査
15. 総括

### 成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験に対するフィードバックを解説することがある。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

前回の講義内容の復讐を行って行くので、復讐内容をしっかり理解してくること。

テキスト

講義プリント配布

臨床検査学講座 生理機能検査学 医歯薬出版

病気がみえる vol.1消化器 医療情報科学研究所

病気がみえる vol.2循環器 医療情報科学研究所

参考資料

心エコーのABC 医学書院

腹部エコーのABC 医学書院

心臓超音波テキスト 医歯薬出版

腹部超音波テキスト 医歯薬出版

超音波検査技術教本 日本臨床衛生検査技師会

オフィスアワー

火曜日12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

2号館 専任教員室D goto@kansai.ac.jp

講義コード	2R116011
講義名	血液検査学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3103
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

**担当教員**

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

近藤 弘〔臨床検査技師〕  
竹田知広〔臨床検査技師〕

**目的**

臨床検査技師は、得られた検査結果が精確かどうかを判断し、検査結果と病態を関連づけて考察する力が求められる。そのためには実施する検査の臨床的意義を十分に理解しておく必要がある。赤血球、白血球、造血臓器、血小板、および血液凝固線溶系疾患の定義・原因・病態生理・臨床症状・検査所見・治療を学ぶ。赤血球系では基準範囲・形態異常・異常血球・貧血・増加症、白血球系では基準範囲・形態異常・異常血球・機能異常・増加症・減少症・リンパ球異常、造血臓器疾患では、白血病・骨髄増殖性疾患・骨髄異形成症候群・Mタンパク血症について学ぶ。血小板系では、増加症・減少症・機能異常、血液凝固線溶系では先天性および後天性異常症について学ぶ。

**到達目標**

赤血球系、白血球系、血小板系、および血液凝固線溶系疾患の概念、病態生理、臨床症状、臨床検査所見、治療を理解する。臨床検査技師として知っておくべき各種疾患の診断基準、診断の進め方を理解する。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／専門技術**

**授業計画**

1. ガイダンス、赤血球系Ⅰ：基準範囲・形態異常・赤血球内容の異常（近藤）
2. 赤血球系Ⅱ：小球性低色素性貧血（近藤）
3. 赤血球系Ⅲ：正球性正色素性貧血（近藤）
4. 赤血球系Ⅳ：大球性正色素性貧血（近藤）
5. 赤血球系Ⅴ：赤血球増加症（近藤）
6. まとめⅠ：小試験とまとめ（近藤）
7. 白血球系Ⅰ：基準範囲・白血球形態異常・異常血球・機能異常（竹田）
8. 白血球系Ⅱ：白血球増加症・減少症・リンパ球の異常（竹田）
9. 白血球系Ⅲ：白血病総論・急性白血病1（竹田）
10. 白血球系Ⅳ：急性白血病2・慢性白血病・その他（竹田）
11. 白血球系Ⅴ：骨髄増殖性疾患・骨髄異形成症候群・M蛋白血症（竹田）
12. 血小板・血管系：血小板減少・機能異常・血小板増多・血管の異常（竹田）
13. 血液凝固線溶系Ⅰ：血液凝固線溶系の異常1（竹田）
14. 血液凝固線溶系Ⅱ：血液凝固線溶系の異常2・血栓性素因（竹田）

15. まとめⅡ：全体のまとめ（竹田）

成績の評価

定期試験

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

予習：教科書（授業範囲）を読む。復習：教科書とともに配付資料、板書内容を確認して、要点を整理する。

履修上の注意

臨床検査技師の国家試験を受験するために必要な科目である。

テキスト

最新臨床検査学講座 血液検査学（医歯薬出版）,病気がみえるvol.5血液（メディックメディア）

参考資料

血液細胞ノート（文光堂）

オフィスアワー

火曜日12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

2号館2階 教員室C hkondo@kansai.ac.jp（近藤）

管理棟2階 207研究室 t-akeda@kansai.ac.jp（竹田）

講義コード	2R117011
講義名	血液検査学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3104
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕

竹田知広〔臨床検査技師〕

#### 目的

臨床検査は各種疾患の診断、治療効果の評価、予後の判定にとって不可欠な客観的情報を提供する。そのために臨床検査技師は迅速かつ精確に検査を遂行する能力が求められる。本実習では、血球計数、血球形態、止血に関する検査手技の習得とその臨床的意義を学ぶ。また、骨髓標本、異常血球標本を観察することで、講義で学習した血球の産生・形態の理解を深め、各種疾患で見られる血球形態異常を学ぶ。

#### 到達目標

基本的な血液学的検査法の原理・準備・操作・判定・結果の解釈と評価を説明できるようにする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. ガイダンス、血球計数Ⅰ：白血球数、血小板数算定ほか
2. 血球計数Ⅱ：赤血球数算定、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値
3. 血球計数Ⅲ：塗抹標本、普通染色、網赤血球染色と網赤血球染色標本の観察
4. 血球形態検査Ⅰ：ペルオキシダーゼ（POD）染色、好中球アルカリホスファターゼ（NAP）染色
5. 赤血球の検査：赤血球抵抗試験、赤血球沈降速度
6. まとめⅠ
7. 血球形態検査Ⅱ：標本の観察
8. 血球形態検査Ⅲ：標本の観察
9. 血球形態観察Ⅳ：標本の観察
10. 血球形態検査Ⅴ：標本の観察
11. 止血検査Ⅰ：出血時間、毛細血管抵抗試験
12. 止血検査Ⅱ：PT、APTT、Fib、第ⅩⅢ因子定性検査
13. まとめⅡ
14. 実技試験
15. 筆記試験

全回近藤・竹田の2名で担当

#### 成績の評価

レポート・提出物40%、筆記試験30%、実技試験30%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の試験答案、実技試験得点を開示する。  
レポート・提出物は採点後に返却する。

#### 自己学習

予習：必ず事前に実習内容について教科書で予習する。復習：実習レポートを記述する。教科書、実習の手引き、配付資料、板書内容を確認して、要点を整理する。

#### 履修上の注意

臨床検査技師の国家試験を受験するために必要な科目である。

#### テキスト

最新臨床検査学講座 血液検査学（医歯薬出版）、実習の手引き（ガイダンス時に配布）、血液細胞ノート（文光堂）

#### 参考資料

臨床検査法提要（金原出版）

#### オフィスアワー

火曜日12：30～13：00

#### 研究室・授業用E-mail

2号館2階 教員室C hkondo@kansai.ac.jp（近藤）  
管理棟2階 207研究室 t-akeda@kansai.ac.jp（竹田）

講義コード	2R130011
講義名	公衆衛生学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R2-2201
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍵弥 朋子	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

鍵弥朋子

#### 目的

公衆衛生学Ⅰでは行政などの社会の組織的な努力を通じて健康問題を解決しようとする仕組みを学ぶ。

#### 到達目標

地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者医療、精神保健を理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 衛生学・公衆衛生学序論
2. 保健医療福祉の制度と法規①
3. 保健医療福祉の制度と法規②
4. 地域保健
5. 母子保健①
6. 母子保健②
7. 学校保健
8. 産業保健①
9. 産業保健②
10. 高齢者の保健医療介護①
11. 高齢者の保健医療介護②
12. 精神保健①
13. 精神保健②
14. 国際保健医療
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験100%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）  
国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

参考資料

公衆衛生がみえる（MEDIC MEDIA）

オフィスアワー

12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D・kagiya@kansai.ac.jp

講義コード	2R131011
講義名	公衆衛生学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R2-2202
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 上北 宏美	指定なし

#### 目的

公衆衛生Ⅱでは、人間集団における疾病の分布とその発生原因を究明し（疫学）、疾病発症の予防を考える。地球規模での環境変化が人々に与える影響について考える。

#### 到達目標

疫学、疾病予防、環境保健について理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 公衆衛生学序論
2. 保健統計
3. 疫学
4. 疾病予防
5. 健康管理
6. 感染症の予防
7. 循環器系疾患の予防
8. 代謝異常の予防
9. がんの予防
10. 腎疾患やアレルギーの予防
11. 環境保健
12. 環境要因
13. 大気汚染や水質汚濁
14. 公害
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験にて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の解説を実施する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学」（南江堂）

「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）

参考資料

「公衆衛生がみえる」（メディックメディア）

オフィスアワー

水曜日 13：00～17：00

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D

講義コード	2R232021
講義名	生理機能検査学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3401
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 きよみ	指定なし
非常勤	高田 厚照	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

後藤 きよみ [臨床検査技師]、高田 厚照 [臨床検査技師]

#### 目的

この講義では、生体情報を物理的に取り出す検査法の1つである呼吸機能検査の各種検査法を学ぶ。また、その臨床的意義を関連付けながら理解し、医療接遇の素地も身に付ける。

#### 到達目標

1. 呼吸整理の基礎を習得し、疾患との関連を説明する。
2. 各種肺機能検査法について方法と手技説明する。
3. 各種肺機能検査の臨床的意義を説明する。
4. 患者接遇や検査時の対応・注意事項を説明する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 呼吸器官の構造と機能
2. 気体の状態、記号、表記方法、肺気量分画
3. 肺容量に関する検査（肺活量測定ほか）
4. 機能的残気量測定、静肺コンプライアンス
5. 換気能力に関する検査（努力呼出曲線、最大換気量）
6. 末梢気道障害に関する検査 クロージングボリューム
7. ガス分布障害に関する検査
8. ガス交換能に関する検査  
肺拡散能、肺泡気-動脈血酸素分圧較差
9. 酸塩基平衡
10. 血液ガス検査（呼吸性障害）
11. 血液ガス検査（代謝性障害）
12. パルスオキシメータ
13. 呼吸器系の特殊検査
14. 各種呼吸器疾患と検査
15. 総括

#### 成績の評価

定期試験により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験に対するフィードバックを行うことがある。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

専門用語が多いため、講義を理解するための必要な用語をまず覚える努力を行うこと。

テキスト

授業配布テキスト

臨床検査学講座・生理機能検査学 第3版

病気がみえる vol.4 呼吸器 医療情報科学研究所

参考資料

呼吸機能検査技術教本 一般社団法人日本臨床衛生検査技師

オフィスアワー

火曜日12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

2号館 専任教員室D

講義コード	2R233021
講義名	生理機能検査学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3402
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

**担当教員**

職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 きよみ	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

後藤 きよみ [臨床検査技師]

**目的**

心電図波形の成り立ち（心臓の解剖と生理）、心電計の構造と操作、特殊心電図、心機図について理解を深める。

**到達目標**

心電図検査の誘導法、心電計、記録、保守管理を把握し、心電図学上の特徴ある波形が判読できることを目指す。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／専門技術**

**授業計画**

1. 心臓の構造と機能
2. 心電図の発現機構
3. 心電図誘導法
4. 正常心電図①
5. 異常心電図②：虚血性・伝導障害
6. 異常心電図③：調律異常
7. 心電計
8. その他の心電図①：運動負荷心電図
9. その他の心電図②：特殊心電図
10. 循環器における画像検査
11. 画像検査方法とその評価法
12. 心音図と心周期
13. 心音図検査
14. 脈波検査の種類と適応症例
15. 総括

**成績の評価**

定期試験で評価する。

**定期試験、レポート等に対するフィードバック**

定期試験に対するフィードバックについて解説することがある。

**自己学習**

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

最終的には正しく心電図検査が行えるように疾患の分類やその機序などを理解し、異常心電図の判読ができるようになるよう履修に務めること。

#### テキスト

授業配布テキスト

病気がみえる vol.2 循環器 医療情報科学研究所  
臨床検査学講座 生理機能検査学」（医歯薬出版）

#### 参考資料

心電図のABC改訂版

不整脈の診かたと治療第5版

ハート先生の心電図セミナー 初級編テキスト

循環機能検査技術教本 日本臨床衛生検査技師会

#### オフィスアワー

火曜12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

2号館 専任教員室D

講義コード	2R234021
講義名	生理機能検査学Ⅲ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3303
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 きよみ	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

後藤 きよみ [臨床検査技師] 郭 哲次

#### 目的

生理機能検査が必要となる脳神経系疾患は、中枢神経系から末梢神経に至るまで広範囲で、診療科では神経内科、脳神経外科、耳鼻科、眼科、精神科、心療内科と多岐にわたる。検査機器も中枢神経系とりわけ脳の検査では脳波、また末梢神経・筋に関しては筋電図（針筋電図、表面筋電図）、神経伝導速度、重心動揺系平衡機能検査、眼底検査、聴力検査、味覚・臭覚検査など広範囲にわたる。まず、神経生理機能検査の機器の種類、検査目的、その機器の使用法を理解し、TPOと目的に応じて適切に計測することができること。計測された結果・所見の基本的理解および、読影が出来ることが重要である。

#### 到達目標

各種検査の意義、検査の方法、所見の判読方法を習得することを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 脳波総論. 脳の構造と機能、脳波発生機序、臨床的意義（郭）  
脳波計、脳波電極と導出法、脳波検査の実施、生理変化と脳波賦活法（郭）
2. 正常脳波① 脳波の基礎的要素、睡眠脳波年齢による脳波変化 正常から異常（郭）
3. 異常脳波① 異常脳波読影の基礎、アーチファクト（郭）
4. 異常脳波② てんかん、CJ病、SSPE、肝性脳症、三相波、PSD、PLEDs、脳死判定、術中に活用（郭）
5. 脳波読影の実際 脳波症例分析、脳波まとめ(郭)
6. 誘発脳電位 ABR等.事象関連電位（後藤）
7. 針筋電図と末梢神経伝導速度の基礎(後藤)
8. 運動神経感覚神経伝達速度の検査法と臨床的意義(後藤)
9. 経頭蓋磁気刺激検査(後藤)
10. 平衡機能検査(後藤)
11. 眼球運動検査(後藤)
12. 眼底検査(後藤)
13. 聴力検査(後藤)
14. 味覚・嗅覚検査(後藤)
15. 総括(後藤)

#### 成績の評価

## 定期試験

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験に対するフィードバックを実施することがある。

## 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

## 履修上の注意

脳波検査では正しい電極装着部位を把握し、脳波の抽出部位の理解と占拠性病変やびまん性病変の出現機序を理解する。神経系検査では神経の病変部位と疾患との関連性を理解する。

## テキスト

講義配布テキスト

臨床検査学講座第3版 生理機能検査学」（医歯薬出版）

## 参考資料

講義中に適宜紹介

病気が見える（脳・神経）

## オフィスアワー

火曜日12：10～13：00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階403研究室（郭）

2号館 専任教員室D（後藤）

講義コード	2R261011
講義名	中国語Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 橋本 知佳	指定なし

#### 目的

ゼロから中国語を学ぶ学生の入門編です。まずは、基礎となる中国語の発音を徹底的に指導し、特有な簡体字や機能語及び簡単な構文法を勉強します。専門用語を取り入れた会話練習を行い、少しずつ中国語に対する興味を湧くことが授業の目的です。

#### 到達目標

中国語を勉強できる基盤を作ること、中国語を正しく発音できること、年間で学んだものを使って、簡単なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とします。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／協調性・コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課 発音 (1) 単母音と声調 音節の特殊ルール①
3. 授業の復習、会話練習、
4. 第2課 発音 (2) 複母音一重母音、三重母音、声調付け位置 音節の特殊ルール②
5. 授業の復習、会話練習
6. 第3課 発音 (3) 複母音一鼻母音
7. 母音のまとめ、リスニングの練習・確認
8. 第4課 発音 (4) 子音① 有気音と無気音 音節の特殊ルール③
9. 授業の復習、会話練習
10. 第5課 (5) 発音 (5) 子音② 音節の特殊ルール④
11. 授業の復習、会話練習、「自己紹介」作文の準備
12. ピンインの実用練習&発音確認
13. 第6課 動詞の「是shi」の基本的な使い方
14. 本文の発音練習、練習問題を解く、個別発音チェック
15. 期末まとめ復習

#### 成績の評価

期末試験及び課題作り・宿題の提出、発表の成績などにより総合的に評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートを提出後、定期試験終了後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

事前にテキストの内容を確認し、授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

授業中に説明する

テキスト

関西医療学園専用「中国語入門テキスト」のコピーを使用する CDなし

参考資料

必要な時に、授業中に指示する。

講義コード	2R262012
講義名	中国語Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1307
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 橋本 知佳	指定なし

#### 目的

中国語Ⅰに続く学習です。条件として、中国語のピン音が発音できる学生を対象に（確認テストあり）、現場で簡単に活用できる会話や役立つ表現を学び、相手に明確に、簡潔に、安心感に与えるようなコミュニケーション能力を上げることが目的です。

#### 到達目標

中国語を正しく発音できるよう、現場で使える簡単な会話や専門用語を覚え、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標とする。

#### 授業計画表

##### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

##### 人間力／協調性・コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. 到達度、受講する際の注意点について、確認テスト
2. 中国語Ⅰのおさらい
3. 第7課 動詞述語&形容詞述語
4. 本文“初診” 応用練習
5. 本文の朗読発表 練習問題を解く、提出
6. 第8課 相手の状況を尋ねる”問診”
7. よくある症状 人体部位
8. 本文の朗読発表 練習問題を解く、提出
9. 第9課 “診察時の体位を指示する”
10. 方位詞 複合練習
11. 前置詞 複合練習
12. 本文の朗読発表 練習問題を解く、提出
13. 第10課 検査について
14. 実践会話演習
15. 期末まとめ復習

#### 成績の評価

期末試験及び宿題の提出、課題発表の成績などにより総合的に評価する。

#### 自己学習

事前にテキストの内容を確認し、授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

授業中に説明する。

テキスト

関西医療学園専用「中国語入門テキスト」臨床検査学科用 CDなし

参考資料

必要な時、授業中に指示する。

講義コード	2R289011
講義名	微生物検査学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3304
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大瀧 博文	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

大瀧博文[臨床検査技師]

### 目的

感染症診療に欠かせない微生物検査において必須である臨床微生物学の基本を修得する。

### 到達目標

テキスト・配布資料を活用し、臨床微生物学を体系的に理解できていること。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／専門技術

### 授業計画

1. 好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌 (Staphylococcus属)
2. 好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌 (Streptococcus属, Enterococcus属)
3. 好気性・通性嫌気性グラム陰性球菌 (Neisseria属, Moraxella属)
4. 通性嫌気性グラム陰性桿菌の基本
5. 通性嫌気性グラム陰性桿菌 (腸内細菌科: Escherichia属, Shigella属)
6. 通性嫌気性グラム陰性桿菌 (腸内細菌科: Salmonella属, Klebsiella属, その他)
7. 通性嫌気性グラム陰性桿菌 (Vibrio科, Aeromonas科)
8. 通性嫌気性グラム陰性桿菌 (Pasteurella科)
9. 好気性グラム陰性桿菌
10. 微好気性グラム陰性らせん菌
11. 好気性・通性嫌気性グラム陽性桿菌
12. Mycobacterium属 (結核菌)
13. Mycobacterium属 (非結核性抗酸菌)
14. 偏性嫌気性菌
15. まとめ

### 成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の解説を実施する。

### 自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ①「最新臨床検査学講座 臨床微生物学」(医歯薬出版)
- ②「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」(メディックメディア)
- ③ 配布資料

#### 参考資料

「戸田新細菌学」(南山堂)  
「微生物検査ナビ」(栄研化学)

#### オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

管理棟 207研究室

講義コード	2R290011
講義名	微生物検査学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3006
対象学科・学年	臨床検査学科・3年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大瀧 博文	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

大瀧博文[臨床検査技師]

### 目的

感染症診療に欠かせない微生物検査において必須である臨床微生物学の基本を修得する。

### 到達目標

テキスト・配布資料を活用し、臨床微生物学を体系的に理解できていること。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

### 授業計画

1. 特殊な細菌（マイコプラズマ，スピロヘータ）
2. 特殊な細菌（リケッチア，クラミジア）
3. 真菌（酵母様真菌：Candida属，Cryptococcus属，他）
4. 真菌（糸状菌：アスペルギルス，皮膚糸状菌，他）
5. 感染部位別の検査法(尿路，腸管，呼吸器)
6. 感染部位別の検査法（血液，髄液，皮膚，他）
7. 薬剤感受性試験の解釈，薬剤耐性菌の検査法
8. ウイルスの基礎
9. DNAウイルス（ヘルペスウイルス科，他）
10. RNAウイルス（オルトミキソウイルス科，他）
11. RNAウイルス（レトロウイルス科，他）
12. RNAウイルス（ピコルナウイルス科，他），プリオン
13. 感染症と免疫
14. 感染症における検査データの解釈
15. まとめ

### 成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の解説を実施する。

### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ① 「最新臨床検査学講座 臨床微生物学」 (医歯薬出版)
- ② 「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」 (メディックメディア)
- ③ 配布資料

#### 参考資料

「戸田新細菌学」 (南山堂)  
「微生物検査ナビ」 (栄研化学)  
「臨床微生物検査ハンドブック」 (三輪書店)

#### オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

管理棟 207研究室

講義コード	2R303011
講義名	病理検査学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3104
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 増田 一吉	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

増田一吉[臨床検査技師]

#### 目的

医療における診断業務の中で病理組織検査が診断確定に関わる事を理解する。採取された組織材料の顕微鏡スライド標本の作製過程を習得し、各種特殊染色法、免疫組織化学、電子顕微鏡検査等、疾患固有の必要な検査を理解する。

#### 到達目標

臨床検査技師が作製した病理組織標本の精度が顕微鏡診断に大いに影響する事を理解し、固定、薄切、染色等での留意点を習得する。さらに、特殊染色、免疫染色、電子顕微鏡検査の必要性と手技を理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 病理組織検査学総論、病理解剖の実際
2. 採取組織の固定、切り出し、骨・石灰巢の脱灰法、廃棄物処理法、バイオハザード対策
3. 組織標本作製法の実際（脱水→脱アルコール→パラフィン浸透→パラフィン包埋まで）、自動包埋装置の説明
4. パラフィンプロック標本の薄切法、凍結組織の薄切法
5. HE染色（通常薄切標本、凍結標本）、封入法
6. 結合組織の染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患
7. 細網線維の染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患
8. 粘液・多糖類の染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患
9. 脂肪染色とアミロイドの染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患
10. 無機物質、生体内色素の染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患
11. 組織内病原体の染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患
12. 核酸の染色と内分泌細胞の染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患
13. 神経組織の染色：試薬調整、目的、意義、関連疾患、電子顕微鏡検査法
14. 酵素組織化学・免疫組織化学（蛍光抗体、酵素抗体法）、遺伝子の染色法（ISH,FISH）
15. まとめ

#### 成績の評価

試験100%

#### 自己学習

授業1コマにつき180分相当の予習、復習を行うこと。病理検査学の講義においては、解剖組織学、病理学の基礎知識が必須であるので、留意してください。

#### 履修上の注意

病院や検査機関での病理検査業務を理解し、通常行われる病理組織標本作製及び使用頻度の高い特殊染色や免疫染色を理解し、3年次の病理検査学実習に備える。

#### テキスト

「臨床検査学講座 病理学／病理検査」（医歯薬出版）

「最新染色法のすべて、月刊Medical Technology別冊」

#### 参考資料

- 1) 「病理検査のすべて：スタンダード病理学」（文光堂）
- 2) 「組織アトラスー正常と病変、月刊Medical Technology別冊」（医歯薬出版）
- 3) 「臨床検査学実習書シリーズ 病理検査学 実習書」（医歯薬出版）

#### オフィスアワー

水曜日の講義終了後

講義コード	2R305011
講義名	病理診断学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学系
科目ナンバリング	R2-3102
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 矢野 恵子	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

矢野 恵子[臨床検査技師、細胞検査士、国際細胞検査士、二級病理技術士(病理学) ]

#### 目的

病理診断学では、疾病発生の機序を臓器ごとに学習し、病理学で得た知識をさらに深め、細胞診学、病理検査学の学習に必要な不可欠な知識を習得する。

#### 到達目標

各臓器の代表的な疾患名とその病理学的背景を理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 循環器疾患
2. 呼吸器疾患①
3. 呼吸器疾患②
4. 消化器疾患①
5. 消化器疾患②
6. 内分泌疾患①
7. 内分泌疾患②
8. 泌尿器疾患
9. 生殖器疾患
10. 乳腺疾患
11. 造血器疾患
12. 神経疾患と運動器疾患
13. 感覚器疾患と皮膚疾患
14. 膠原病
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験の成績で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習、復習を行うこと。

テキスト

「臨床検査講座 病理学/病理検査学」(医歯薬出版)

参考資料

「なるほどなっとく!病理学」(南江堂)

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

2号館専任教員室A  
yano@kansai.ac.jp

講義コード	2R314021
講義名	分析化学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R2-2107
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩橋 秀夫	指定なし

#### 目的

分析化学の基本知識と技能は自然科学のあらゆる学問分野の根幹をなすものである。本講義により臨床検査学を学ぶのに必要な基本知識の修得を目指す。

#### 到達目標

分析化学の基本知識の修得を通して臨床検査学を学ぶための基礎知識及び思考力を修得する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／探究心

#### 授業計画

1. 酸・塩基 (1)
2. 酸・塩基 (2)
3. 酸・塩基の容量分析
4. 緩衝作用と緩衝溶液
5. 酸化還元分析 (1)
6. 酸化還元分析 (2)
7. 電気化学分析 (1)
8. 電気化学分析 (2)
9. 光と分子
10. 可視・紫外スペクトル分析/蛍光スペクトル分析 (1)
11. 原子吸光分析
12. マススペクトル(MS)
13. クロマトグラフィー
14. 高速液体クロマトグラフィー (HPLC) /HPLC-MS分析
15. ガスクロマトグラフィー (GC) /GC-MS分析

#### 成績の評価

小テスト (30%)、定期試験 (70%)

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。テキストをもとに次回講義予定の内容について予習し、授業中に課した演習問題を重点に復習しておくこと。

#### テキスト

配布資料と「ステップアップ 大学の分析化学」 (裳華房)

参考資料

「生命科学のための分析化学」 (化学同人)  
「分析科学 (第2版)」 (化学同人)

オフィスアワー

月曜日・金曜日 (12時20分～13時10分)

研究室・授業用E-mail

410研究室 iwahashi@kansai.ac.jp

講義コード	2R326011
講義名	放射性同位元素検査学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3203
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田中 浩基	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

高田卓志

### 目的

放射線や放射性同位元素は、医療において診断や治療に広く利用されており、今やそれなしでは現在の医療は成り立たないと言っても過言ではない。本教科では放射線、放射能および放射性同位元素とは何かを物理的性質から生物影響、用いられる用語や単位、測定方法、放射線防護および関係法令について幅広く学び、その上で放射性同位元素を用いた臨床検査がどのように行われているか基礎から臨床例までを理解出来るようになることを目的とする。

### 到達目標

医療において必要不可欠となっている放射線や放射性同位元素について正確な基礎知識を習得し、それらが臨床検査にどのように生かされているのかを理解できるようになる。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

### 授業計画

1. 放射線と放射能（予備知識としての単位、用語など、歴史）（田中）
2. 放射線と放射能（原子と原子核、同位元素、原子核の崩壊）（田中）
3. 放射線の性質と相互反応（ $\alpha$ 線、 $\beta$ 線、 $\gamma$ 線、X線、中性子）（田中）
4. 放射線量と単位（田中）
5. 放射線の測定Ⅰ（原理）（田中）
6. 放射線の測定Ⅱ（測定器、統計）（田中）
7. 放射線の測定Ⅲ（測定器、統計）（田中）
8. 放射性医薬品（製造方法、性質）（田中）
9. 臨床検査法Ⅰ（in vitro法）（田中）
10. 臨床検査法Ⅱ（in vivo法）（田中）
11. 臨床検査法Ⅲ（in vivo法）（田中）
12. 放射線が人体にもたらす影響（高田）
13. 放射線が人体にもたらす影響（高田）
14. 放射線防護（ICRP勧告）（高田）
15. 安全取扱、関連法令（田中）

### 成績の評価

期末試験の成績を基に、授業への取り組み度等を加味し、総合的に評価する。

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

### 自己学習

毎回の授業につき1時間程度の予習、復習。特に教科書の図表の理解。

### 履修上の注意

本科目で学ぶのは、放射性同位元素をキーワードとして物理学、化学、生物学、医学および電子工学から統計学、法律までと非常に多岐にわたる。講義は基礎知識から応用へと進展していくので、特に基本となる前半部分は、しっかりと予習復習を行い正確に理解すること。

### テキスト

「臨床検査学講座 放射性同位元素検査技術学」（医歯薬出版）

小野口昌久・川井恵一・絹谷清剛 著

教科書の補助としてプリントを配布する。

### 参考資料

「改訂版 放射線のABC」（日本アイソトープ協会）

「やさしい放射線とアイソトープ」（日本アイソトープ協会）

講義コード	2R327011							
講義名	放射性同位元素検査学実習							
講義開講時期	前期							
講義区分	実習							
基準単位数	1							
科目分類・分野名								
科目ナンバリング								
対象学科・学年								
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 竹田 知広</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 竹田 知広	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 竹田 知広	指定なし						
授業計画表								

講義コード	2R336011
講義名	免疫検査学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3003
対象学科・学年	臨床検査学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 上田 一仁	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

上田 一仁[臨床検査技師]

#### 目的

基礎免疫学をもとにして、臨床検査で測定される免疫学的検査について、測定原理、臨床的意義について理解することを目的とする。

#### 到達目標

免疫学的検査の測定原理、干渉要因等を理解し、臨床的意義を考察できることを目標にする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 免疫検査学Ⅰ復習
2. 免疫学的検査法総論
3. 免疫学的検査が有用な疾患～感染症
4. 免疫学的検査が有用な疾患～腫瘍性疾患
5. 免疫学的検査の原理1
6. 免疫学的検査の原理2
7. 免疫電気泳動法
8. 感染症の検査1
9. 感染症の検査2
10. アレルギー検査
11. 自己免疫疾患関連検査
12. 免疫不全症関連検査
13. 腫瘍マーカー検査
14. 血清蛋白異常症関連検査
15. 免疫学的検査法まとめ

#### 成績の評価

学期末試験で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、解説を実施する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「臨床検査学講座 免疫検査学」 (医歯薬出版)

参考資料

「病気がみえる 免疫・膠原病・感染症」(メディックメディア)

「標準臨床検査学 免疫学」 (医学書院)

オフィスアワー

火曜日 12:30～13:30

研究室・授業用E-mail

2号館 専任教員室B

講義コード	2R340011
講義名	輸血・移植検査学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3005
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 竹田 知広	指定なし
教員	上田 一仁	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

竹田 知広〔臨床検査技師〕

上田 一仁〔臨床検査技師〕

#### 目的

輸血、移植検査は、実際の測定にとどまらず、血液製剤や造血幹細胞の管理等多岐にわたる。輸血・移植検査学では、測定方法や製剤管理のみならず、輸血、移植適応疾患等の臨床病態についても理解することを目的とする。

#### 到達目標

輸血、移植かかる検査に関する基礎的知識を習得することはもちろんのこと、臨床病態を踏まえ血液製剤の適正使用を推進できる臨床検査技師育成を目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 輸血療法とは（上田）
2. 輸血用血液製剤の種類と特性（上田）
3. 輸血の適応と製剤の選択（上田）
4. 輸血前に必要な検査（上田）
5. 血液型とその検査（上田）
6. 赤血球抗体検査（上田）
7. 交差適合試験（上田）
8. 自己免疫性溶血性貧血と自己抗体（上田）
9. 輸血副作用（上田）
10. 自己血輸血（上田）
11. 血液型不適合妊娠と新生児溶血性疾患（上田）
12. HLA検査（上田）
13. 血小板抗原（上田）
14. 顆粒球抗原（上田）
15. 移植（竹田）

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「免疫検査学」（医歯薬出版株式会社）

「輸血・移植検査技術教本（JAMT技術教本シリーズ）」（丸善出版）

参考資料

特に指定しない

オフィスアワー

月曜日 13:00~15:00

研究室・授業用E-mail

1号館207研究室 t-takeda@kansai.ac.jp（竹田）

講義コード	2R349011
講義名	臨床化学検査学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3201
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 上田 一仁	指定なし
教員	中島 康仁	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

上田 一仁[臨床検査技師]

中島 康仁[臨床検査技師]

#### 目的

人体の体液などの生体物質を分析し、その測定結果を疾患の予防、診断、治療に活用することを目的とする。当科目では、分析の基礎や糖質、蛋白質、含窒素成分、脂質とリポ蛋白、酵素、電解質、血液ガスなどの分析法や臨床的意義などを学ぶ。

#### 到達目標

各検査項目の化学、代謝、分析法、基準値と異常値、臨床的意義、生理的変動要因などの基本的事項を修得する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 総論（上田）
2. 分析法の基礎①(分光光度分析法など)（上田）
3. 分析法の基礎②(電気化学分析法など)（上田）
4. 化学分析法各論：(1)糖質(グルコースなど)（中島）
5. 化学分析法各論：(2)蛋白質①(総蛋白など)（中島）
6. 化学分析法各論：(2)蛋白質②(血清蛋白分画など)（中島）
7. 化学分析法各論：(3)含窒素成分①(アンモニアなど)（中島）
8. 化学分析法各論：(3)含窒素成分②(尿酸など)（中島）
9. 化学分析法各論：(4)脂質とリポ蛋白①(総コレステロールなど)（中島）
10. 化学分析法各論：(4)脂質とリポ蛋白②(リン脂質など)（中島）
11. 化学分析法各論：(5)酵素①(ASTなど)（中島）
12. 化学分析法各論：(5)酵素②(ALPなど)（中島）
13. 化学分析法各論：(5)酵素③(ChEなど)（中島）
14. 化学分析法各論：(5)酵素④(CKなど)（中島）
15. 化学分析法各論：(5)酵素⑤(LAPなど)（中島）

#### 成績の評価

学期末試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、解説を実施する。

## 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

## テキスト

「臨床検査学講座 臨床化学検査学」（医歯薬出版）

「病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌」（メディックメディア）

## 参考資料

「病気がみえる 消化器」（メディックメディア）

「新版 臨床化学」（講談社サイエンティフィック）

## オフィスアワー

火曜日 12:30～13:30

## 研究室・授業用E-mail

2号館 専任教員室B

講義コード	2R350011
講義名	臨床化学検査学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3202
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 上田 一仁	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

上田 一仁[臨床検査技師]

中島 康仁[臨床検査技師]

### 目的

人体の体液などの生体物質を分析し、その測定結果を疾患の予防、診断、治療に活用することを目的とする。当科目では、分析の基礎や糖質、蛋白質、含窒素成分、脂質とリポ蛋白、酵素、電解質、血液ガスなどの分析法や臨床的意義などを学ぶ。また、臓器機能評価と病態、診療支援と臨床検査結果の解析や評価などを学ぶ。

### 到達目標

各検査項目の化学、代謝、分析法、基準値と異常値、臨床的意義、生理的変動要因などの基本的事項を修得する。また、臓器機能評価と病態、診療支援と臨床検査結果の解析や評価などの基本的事項を修得する。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／専門技術

### 授業計画

1. 化学分析法各論：(6)電解質と微量元素①(ナトリウムなど) (中島)
2. 化学分析法各論：(6)電解質と微量元素②(鉄など) (中島)
3. 化学分析法各論：(7)ホルモン①(下垂体ホルモン、甲状腺ホルモンなど) (中島)
4. 化学分析法各論：(7)ホルモン②(ステロイドホルモンなど) (中島)
5. 化学分析法各論：(8)動的機能検査 (中島)
6. 臓器機能評価と病態(1)：肝機能 (中島)
7. 臓器機能評価と病態(2)：心・循環器機能 (中島)
8. 臓器機能評価と病態(3)：腎機能 (中島)
9. 臓器機能評価と病態(4)：内分泌機能 (中島)
10. 臓器機能評価と病態(5)：酸 - 塩基平衡機能 (中島)
11. 臓器機能評価と病態(6)：骨代謝機能 (中島)
12. 臓器機能評価と病態(7)：炎症 (上田)
13. 臓器機能評価と病態(8)：腫瘍マーカー (上田)
14. 臓器機能評価と病態(9)：栄養状態、血中薬物モニタリング (中島)
15. 臓器機能評価と病態(10)：その他の臓器(消化器など)、診療支援と臨床化学検査結果の解析 (上田)

### 成績の評価

学期末試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「臨床検査学講座 臨床化学検査学」（医歯薬出版）

「病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌」（メディックメディア）

参考資料

「病気がみえる 循環器」（メディックメディア）

「病気がみえる 腎・泌尿器」（メディックメディア）

「新版 臨床化学」（講談社サイエンティフィック）

オフィスアワー

水曜日 12:30～13:30

研究室・授業用E-mail

2号館 専任教員室B

講義コード	2R362011
講義名	臨床病態学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	R2-3401
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 紀平 為子	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

紀平為子[医師]

#### 目的

臨床病態学は疾患の成因、病態、臨床症状、診断方法、治療法と経過など広範な領域を含み、臨床検査技師にとって最も基本となる学問である。臨床病態学Ⅰでは、主として疾患の病因、病態および臨床検査所見の意義、診断プロセスについて理解を深め、必要な知識を習得することを目的とする。さらにチーム医療の構成員として臨床検査学の立場から情報発信ができる臨床検査技師の育成を目的とする。

#### 到達目標

各種疾患の病態を理解し、診断と治療における臨床検査の意義と知識を習得する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 臨床病態学-意義と概要
2. 循環器系疾患の病態と検査
3. 呼吸器系疾患の病態と検査（1）
4. 呼吸器系疾患の病態と検査（2）
5. 消化器系疾患の病態と検査
6. 肝・胆・膵疾患の病態と検査
7. 代謝・栄養障害の病態と検査
8. 内分泌疾患の病態と検査
9. 腎・尿路系疾患の病態と検査
10. 体液・電解質異常の病態と検査
11. アレルギー性疾患・免疫異常の病態と検査
12. 神経系の感染性・炎症性疾患の病態と検査
13. 神経・筋疾患とてんかんの病態と検査
14. 脳血管障害の病態と検査
15. 認知症を含む神経変性疾患の病態と検査

#### 成績の評価

定期試験にて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験後模範解答を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき180分相当の予習と復習をすること。

## テキスト

臨床検査学講座 臨床医学総論/臨床検査医学総論 (医歯薬出版株式会社)

## 参考資料

MT標準臨床検査学 臨床検査医学総論, 医学書院, 2012  
標準臨床検査医学, 医学書院, 2013  
臨床検査の選択と解釈, 医歯薬出版

## オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 408研究室 tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	2R362012
講義名	内科学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 紀平 為子	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

紀平為子[医師]

#### 目的

臨床病態学は疾患の成因、病態、臨床症状、診断方法、治療法と経過など広範な領域を含み、臨床検査技師にとって最も基本となる学問である。臨床病態学<sup>1</sup>では、主として疾患の病因、病態および臨床検査所見の意義、診断プロセスについて理解を深め、必要な知識を習得することを目的とする。さらにチーム医療の構成員として臨床検査学の立場から情報発信ができる臨床検査技師の育成を目的とする。

#### 到達目標

各種疾患の病態を理解し、診断と治療における臨床検査の意義と知識を習得する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 臨床病態学-意義と概要
2. 循環器系疾患の病態と検査
3. 呼吸器系疾患の病態と検査（1）
4. 呼吸器系疾患の病態と検査（2）
5. 消化器系疾患の病態と検査
6. 肝・胆・膵疾患の病態と検査
7. 代謝・栄養障害の病態と検査
8. 内分泌疾患の病態と検査
9. 腎・尿路系疾患の病態と検査
10. 体液・電解質異常の病態と検査
11. アレルギー性疾患・免疫異常の病態と検査
12. 神経系の感染性・炎症性疾患の病態と検査
13. 神経・筋疾患とてんかんの病態と検査
14. 脳血管障害の病態と検査
15. 認知症を含む神経変性疾患の病態と検査

#### 成績の評価

定期試験にて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験後模範解答を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき180分相当の予習と復習をすること。

## テキスト

臨床検査学講座 臨床医学総論/臨床検査医学総論 (医歯薬出版株式会社)

## 参考資料

MT標準臨床検査学 臨床検査医学総論, 医学書院, 2012  
標準臨床検査医学, 医学書院, 2013  
臨床検査の選択と解釈, 医歯薬出版

## オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 408研究室 tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	2R363011
講義名	臨床病態学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療検査系
科目ナンバリング	R2-3204
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 西田 功一	指定なし
教員	竹田 知広	指定なし

#### 目的

各々の疾患における病態を臨床検査の見地からアプローチし、病態と臨床検査を繋げた総合的な理解を深める。

#### 到達目標

各々の疾患における病態と臨床検査の意義および役割を総合的に理解できていること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 生理検査（循環器）から見た病態へのアプローチ
2. 生理検査（呼吸器、脳神経）から見た病態へのアプローチ
3. 画像検査から見た病態へのアプローチ
4. 臨床化学検査から見た病態へのアプローチ
5. 一般検査から見た病態へのアプローチ
6. 病理検査から見た病態へのアプローチ
7. 血液検査から見た病態へのアプローチ
8. 微生物検査から見た病態へのアプローチ
9. 免疫検査から見た病態へのアプローチ
10. 輸血検査から見た病態へのアプローチ
11. 公衆衛生に関わる疾患と病態
12. 医用工学・情報技術を活用した病態の理解
13. 症例検討（循環器、その他）
14. 症例検討（消化器、その他）
15. 症例検討（血液、その他）

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

適宜配布する。

#### 参考資料



講義コード	2R363012
講義名	内科学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床検査系
科目ナンバリング	
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 西田 功一	指定なし
教員	竹田 知広	指定なし

#### 目的

各々の疾患における病態を臨床検査の見地からアプローチし、病態と臨床検査を繋げた総合的な理解を深める。

#### 到達目標

各々の疾患における病態と臨床検査の意義および役割を総合的に理解できていること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 生理検査（循環器）から見た病態へのアプローチ
2. 生理検査（呼吸器、脳神経）から見た病態へのアプローチ
3. 画像検査から見た病態へのアプローチ
4. 臨床化学検査から見た病態へのアプローチ
5. 一般検査から見た病態へのアプローチ
6. 病理検査から見た病態へのアプローチ
7. 血液検査から見た病態へのアプローチ
8. 微生物検査から見た病態へのアプローチ
9. 免疫検査から見た病態へのアプローチ
10. 輸血検査から見た病態へのアプローチ
11. 公衆衛生に関わる疾患と病態
12. 医用工学・情報技術を活用した病態の理解
13. 症例検討（循環器、その他）
14. 症例検討（消化器、その他）
15. 症例検討（血液、その他）

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

適宜配布する。

#### 参考資料



講義コード	2R410011
講義名	生化学実習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎医学系
科目ナンバリング	R2-2108
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

大西基代(臨床検査技師), 鍵弥朋子(臨床検査技師)

#### 目的

実習を通じて、講義で学んだ主な生体物質(糖質, タンパク質)の性質や機能を化学反応に基づいて理解し、臨床検査技師に必要な基本的な実験技術や方法の原理を体得する。

#### 到達目標

各種実験器具および機器の操作方法, 実験レポートの記述法を修得する。生体物質の性質や機能を理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識/専門技術

#### 授業計画

1. 実習ガイダンス
2. 実習講義
3. 基本操作実習(出用容器の操作の練習)
4. 基本操作実習(受用容器の操作の練習)
5. 基本操作実習(計測機器(電子天秤、分光光度計)の説明)
6. 基本操作実習(計測機器操作の修得)
7. 基本操作実習(スペクトルの測定)
8. 基本操作実習(比色定量法の説明)
9. 基本操作実習(各種ピペットによる希釈液①の作成)
10. 基本操作実習(希釈液①による検量線の作成)
11. 基本操作実習(受用容器による希釈液②の作成)
12. 基本操作実習(希釈液②による検量線の作成)
13. 基本操作実習(酸塩基溶液の作成)
14. 基本操作実習(緩衝液の作成)
15. 基本操作実習(pHメーターの説明)
16. 基本操作実習(緩衝液の酸塩基によるpH変動の測定)
17. 糖質の定性反応(ベネディクト反応)
18. 糖質の定性反応(セリワノフ反応)
19. 糖質の定性反応(ビアル反応)
20. 糖質の定性反応(モーリッシュ反応)
21. タンパク質・アミノ酸の定性反応(ニンヒドリン反応)
22. タンパク質・アミノ酸の定性反応(坂口反応)

23. タンパク質・アミノ酸の定性反応(パウリ反応)
24. タンパク質・アミノ酸の定量反応(紫外部吸収)
25. 酵素反応(酵素反応の説明 試薬調整)
26. 酵素反応(試薬調整)
27. 酵素反応(基質による酵素活性の変動)
28. 酵素反応(試薬調整)
29. 酵素反応(pHによる酵素活性の変動)
30. まとめ 片付け

#### 成績の評価

実習内容(レポートおよび実技試験を含む)30% 筆記試験 70%にて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

#### 自己学習

実習講義の内容を予習し、実習ノートを作成して実験に臨むこと。

#### テキスト

実習書と配布資料で行う。

#### 参考資料

- 『生化学実験』田代操編(化学同人),
- 『栄養生理学・生化学実験』加藤秀夫他 著(講談社サイエンスフィック),
- 『はじめてみよう生化学実験』山本克博 編集(三共出版)
- 『臨床化学検査学』浦山修他 編集(医歯薬出版)

#### オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

管理棟 2階209研究室・onisi@kansai.ac.jp

講義コード	2R582011
講義名	生理機能検査学実習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床検査学
科目ナンバリング	R2-3305
対象学科・学年	臨床検査学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 きよみ	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

後藤 きよみ [臨床検査技師]、上北宏美 [臨床検査技師]、鍵弥朋子 [臨床検査技師]

#### 目的

代表的な各生理機能検査の種類と臨床的意義を理解する。検査の基礎技術を習得し、生体の生理的状态を正しく記録の上、患者心理・接遇についても考える。また、各機器の構造、安全性についても習得する。

#### 到達目標

各生理機能検査について、機器の取扱・操作、電極・トランスジューサーの装着法、アーチファクトと生体信号の鑑別と除去方法の理解、正しい波形・画像の確認と解釈および被検者への接遇と安全管理を把握する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 探究心／専門技術

#### 授業計画

- 1.循環器系実習 心電図基礎(後藤・上北・鍵弥)
- 2.循環器系実習 心電図検査(後藤・上北・鍵弥)
- 3.循環器系実習 負荷心電図基礎(後藤・上北・鍵弥)
- 4.循環器系実習 負荷心電図検査(後藤・上北・鍵弥)
- 5.足関節上腕血圧比基礎(後藤・上北)
- 6.足関節上腕血圧比検査(後藤・上北)
- 7.脳神経系実習 脳波検査の実施①：脳波測定法の基礎(後藤)
- 8.脳神経系実習 脳波検査の実施②：各種賦活法、雑音鑑別/対処(後藤)
- 9.感覚機能検査 味覚検査(後藤)
- 10.心電図判読基礎(後藤・上北)
- 11.心電図判読の実際(後藤・上北)
- 12.循環器機能検査総括①(後藤・上北)
- 13.循環器機能検査総括②(後藤・上北)
- 14.生理機能検査まとめ①(後藤・上北)
- 15.生理機能検査まとめ②(後藤・上北)

#### 成績の評価

レポート、筆記試験、実技試験にて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験に対するフィードバックを行うことがある。

## 自己学習

実習に必要な電極装着部位の理解や検査方法・検査手順など復習しておくこと。

## 履修上の注意

機械の台数が限られているので、機械が空いているときは積極的に使用して習得することを心がけること。

## テキスト

生理機能検査学 医歯薬出版  
必要に応じてテキストを配布する。

## 参考資料

実習中に適宜紹介

## オフィスアワー

火曜日 12:10~13:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階403研究室（郭）  
2号館 専任教員室D（後藤・上北・鍵弥）